

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第1区分

【発行日】令和6年8月1日(2024.8.1)

【国際公開番号】WO2022/131199

【出願番号】特願2022-569976(P2022-569976)

【国際特許分類】

C 0 1 B 2 1 / 0 7 2 (2 0 0 6 . 0 1)

C 0 8 L 6 3 / 0 0 (2 0 0 6 . 0 1)

C 0 8 K 9 / 0 6 (2 0 0 6 . 0 1)

10

【F I】

C 0 1 B 2 1 / 0 7 2 R

C 0 8 L 6 3 / 0 0 C

C 0 8 K 9 / 0 6

【手続補正書】

【提出日】令和6年7月24日(2024.7.24)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0086

20

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0086】

上述した(メタ)アクリルモノマーを重合硬化させるには、熱ラジカル重合開始剤を使用することが可能である。

熱ラジカル重合開始剤の例としては、以下の化合物を例示することができる。

有機過酸化物、例えば、

オクタノイルパーオキシド、

ラウロイルパーオキシド、

t - ブチルパーオキシ - 2 - エチルヘキサノエート、

30

ベンゾイルパーオキシド、

t - ブチルパーオキシイソブチレート、

t - ブチルパーオキシラウレート、

t - ヘキシルパーオキシベンゾエート、

ジ - t - ブチルパーオキシド；

アゾビス系重合開始剤、例えば、

2, 2 - アゾビスイソブチロニトリル、

2, 2 - アゾビス - (2, 4 - ジメチルバレロニトリル) ；

上記の重合開始剤の中でも、80 ~ 160 で重合させる場合は、ベンゾイルパーオキサイドやt - ブチルパーオキシ - 2 - エチルヘキサノエートなどを好適に用いることができる。

40

これら重合開始剤は、モノマー100質量部に対して、0.1 ~ 20質量部、好適には0.5 ~ 10質量部用いるのが一般的である。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0113

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0113】

比較例8；

50

表面処理を施していない A 1 N 粉末 A 1 の疎水化度、粉末の分解率、樹脂内基本加水分解率を測定した。また、上記 A 1 N 粉末を使用して、前記エポキシ樹脂組成物、アクリル樹脂組成物を製造し、その耐水性試験を行った。結果を表 2 及び表 3 にまとめて示す。

10

20

30

40

50